

かずさの博物誌

ダイサギ

～コバルトブルーのアイシャドウ～

文・写真／成田篤彦

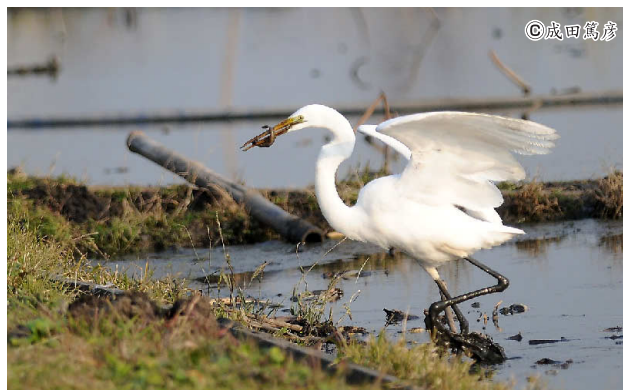
2012.7.20



©成田篤彦

▲飛ぶダイサギ＝コウノトリ目 サギ科 全長約90cm
県指定重要保護生物＝2008年6月7日 袖ヶ浦市(筆者撮影)

ダイサギは世界中の温帯、熱帯に広く分布する。日本では夏鳥として渡来し関東地方以南と九州で繁殖するが、越冬するものも多い。県内では河川、池、沼、水田、河口、干潟などの広くて開けた水辺にいる。シラサギと言われるダイサギ、アマサギ、コサギ、チュウサギのなかでは最も大きい。上総では、干潟や堰やハス田などで、一年中観察できる。しかし、そう多くはない。



©成田篤彦

▲ドジョウをつまみ農道へ上がる＝冬のくちばしは黄色。
＝2008年12月12日 木更津市(筆者撮影)

若いころダイサギが青空をゆつたりと飛ばたいて飛ぶ姿をしみじみと目で追い続けた。その頃、時間もカメラを買ってお金も、撮影の腕もなく、この姿をカメラに収めるなど全く思っても寄らなかつた。



©成田篤彦

▲鷺山に降りるダイサギ
＝2008年6月7日 袖ヶ浦市(筆者撮影)

さんでいた。ドジョウがくちばしにからみつきすぐには呑み込めない。舗装された農道に上がってきて、丸呑みにした。ドジョウを落しても逃がさないようにしているのだと思つた。その時、喉がくねくねと動いていた。

見上げるとつばさの一枚一枚の羽が整然と重なり合い、尾羽が見事に扇形に開き、黒色の長い脚を真っすぐに伸ばして飛んでいた。また、目元とくちばしの間が、コバルトブルーで、エキゾチックで美しい。この色は繁殖期にのみ現れる。

アマサギ、コサギ、チュウサギとアオサギと一緒に鷺山で繁殖するが、体が大きいせいで鷺山の条件の良い場所でも巣作りしている。現在、千葉県重要保護生物に指定されている。日本画などに描かれるのはコサギが多い。コサギは頭に飾り羽があるので、絵になるらしい。また、アオサギも鶴に似た姿をしているので、俳句にも絵画にも人気がある。それに比べるとダイサギは今一つ人々の関心が薄いようだ。しかし、コバルトブルーのアイシャドウをして、青空を大きくてゆつたりと飛ばたく姿はとても上品で美しい。

それ以外の時期は黄色である。飛行する真下で、指が痛くなるほどシャッターを押し続けた。ダイサギは鷺山の上空に來ると体をひねるようにして降りて、巣のある樹上に止まる。白色の姿が緑によく映える。『白鷺(シラサギ)の神々しさを巢に下る 元屋敷はま子』小櫃川でも夏にダイサギがアユの幼魚をつまんでいる姿が見られる。

冬季には、はず田をたくましい脚で、大股でゆつくりと歩いていた。突然、くちばしを水面にさしこんだ。すると十数センチもあるドジョウの頭をは



©成田篤彦

▲小魚をつまむダイサギ＝繁殖期の眼元は青色。魚、ザリガニなどを食べる。
＝2011年5月16日 木更津市(筆者撮影)